

東京神學大學報

T O K Y O U N I O N



T H E O L O G I C A L S E M I N A R Y

No. 339

OCTOBER 16. 2026

●夏期伝道実習壮行礼拝説教

「キリストの豊かさに会う覚悟」

日本基督教団 甲府教会 牧師 齋 藤 真 行

●受験志願者募集のご案内

東京神学大学 教授 田 中 光

●博士課程後期課程研究発表会の報告

青山学院大学 宗教主任 和 寺 悠 佳

●夏期伝道実習報告

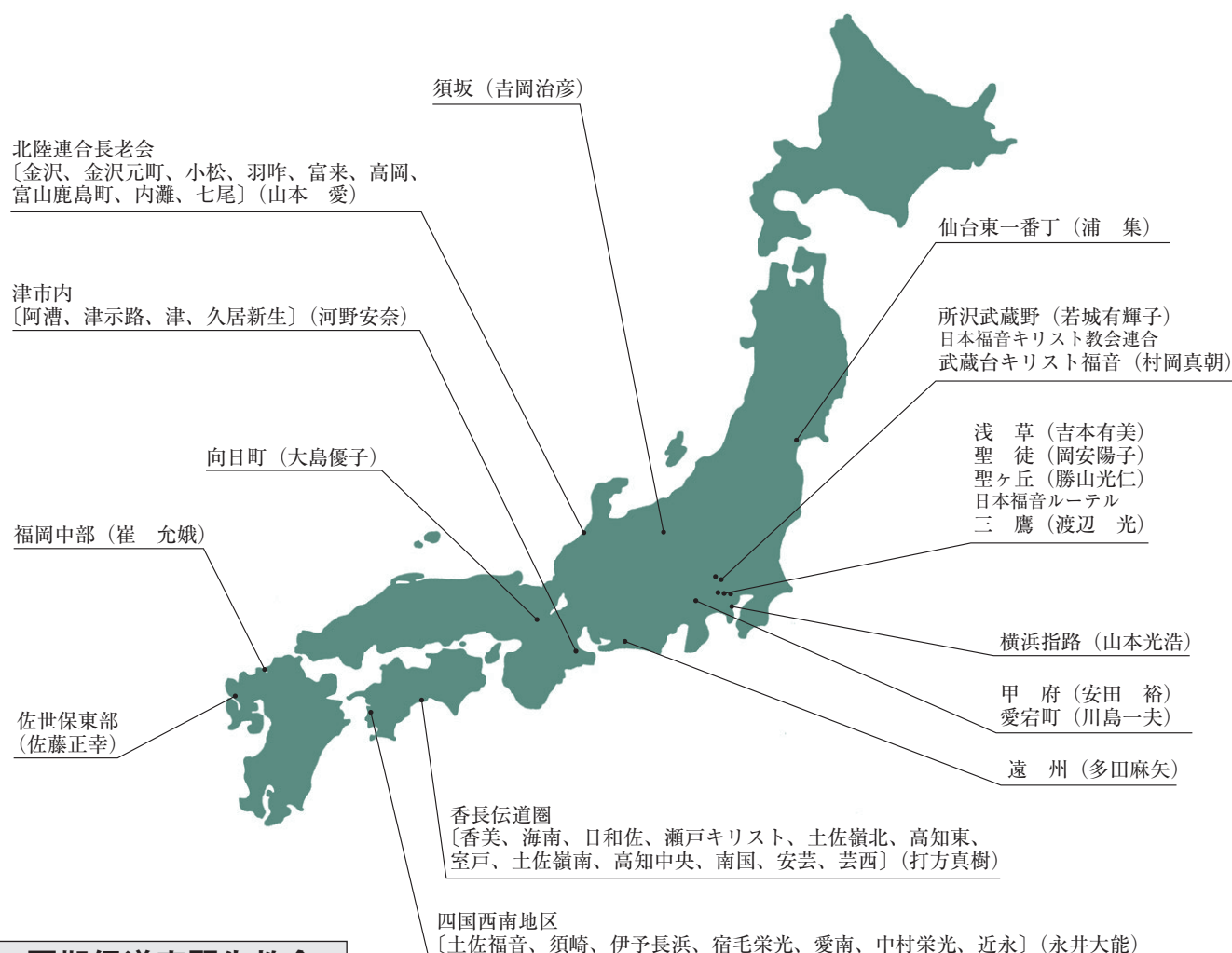
●2027年度入学者選抜

11月選抜(学 部) : 2026年11月23日(月・祝)

2月選抜(学 部) : 2027年2月16日(火)

2月選抜(大学院) : 2027年2月16日(火)、2月17日(水)

3月選抜(学 部) : 2027年3月9日(火)



夏期伝道実習先教会

東京神学大学ホームページをご覧ください。

<https://www.tuts.ac.jp/>

「キリストの豊かさに出会う覚悟」

マタイによる福音書 第13章 53～58節

日本基督教団 甲府教会 牧師 齋 藤 真 行



夏期伝道実習への派遣に向けて御言葉を聴くこの壮行礼拝で、主イエスを受け入れなかったナザレの人びとの姿を、「反面教師」として読み直し、御言葉を受けとめたいと思います。「人々が不信仰だったので、そこではあまり奇跡をなさらなかった」（マタイ13:58）とあります。夏期伝道実習で、ぜひ皆さんに主イエスの御業を目撃してほしいのです。御言葉を聴くこと、教会に仕えることで、主イエスの奇跡に触れて頂きたいと願っています。ではなにが主イエスの御業を妨げるのでしょうか。

ナザレの人びとは、「驚いて」（54節）います。カール・バルトは神学にはよい意味での驚きが伴うことを語りました。神の恵みの新しさに触れる驚きです。ところが、ナザレの人びとの場合は、逆の意味となりました。主イエスが語られたとき、「この人は大工の息子ではないか。母親はマリヤといい」（55節）と、自分たちが知っている過去の主イエスのイメージにとらわれて、そのギャップに驚いたのです。目の前でなされている主イエスの御業に対して、自らの過去のイメージを優先して、心を閉ざしてしまいました。

これはナザレの人びとのことばかりでなく、私たちの身にも起こります。私たちも礼拝を重ね、神学を学び、教会に仕えることで、主イエスとの歩みを深めていきます。主イエスについての知識やイメージを蓄積していきます。主イ

エスについて、「わかった」と思える部分が増えていきます。しかし、どんなに神についての知識や経験を積んでも、それ自体は神ご自身ではありません。私たちの内側に積まれるものよりも、主イエスは限りなく豊かであられるからです。

ヨブ記において、ヨブを論難する3人の友人たちは、ヨブの苦難について「あなたが罪を犯したから、このような苦しみが起こった。罪を認めて悔い改めれば、神は苦しみから救ってくださる」と語り続けました。ヨブはこの理屈に反発しました。あの友人たちは、因果応報的な教理を自由な神の働きよりも上に置いて、神の働きを原則によって割り切ってしまう、という罪を犯したと言えます。そのため、ヨブ記の最後では、あの友人たちも神に怒られる結果となりました。ナザレの人びとも、ヨブの友人たちも、過去のイメージや、原則といった神ではないものを、神よりも優先することで、かえって神のお働きに心を閉ざしてしまい、神が働いてくださる場所を塞いだと言えるでしょう。

私たちがどれほど学びを深め、主イエスと歩む経験を深めても、私たちの内に蓄積されるものは、やがて消耗し、擦り切れていきます。そこにより頼むことで、神の御業を妨げることもあるのです。むしろ、神の恩寵は私達の内側にあるものを遥かに超えて、大きく豊かであることに救いがあります。

海は不思議なもので、毎朝浜辺を歩くと、違うものが打ちあがります。朝毎に新しい表情を見せます。打ち寄せる波に、限りがないからです。主イエスの恵みの御業は、この波のようなものです。私たちの側がいかに枯渇してしまおうとも、新たに打ち寄せ続け、注がれ続けます。私たちが疲れ果ててしまっても、外から注がれる主イエスの慈しみは絶えることがありません。その主イエスの御業に對して、心を開くように招かれています。

夏期伝道実習に派遣された先で、奉仕を担うなかで「うまくいった」と思えることも、「失敗した」と感じることもあるでしょう。できるだけ教会の皆さんに喜んでもらえるように、気を使ったり、力を注いだりするの、よいことです。ただ、本当の課題はそこではありません。うまくいったときも、失敗したときも、なお打ち寄せ続ける、主イエスの恩寵に心を開いたのかどうか。そこに私たちの働きの命があります。私たちの内側のものが擦り切れ果てても、注がれる主イエスの恵みを知っているなら、立ち上がり、歩み続けることができます。

夏期伝道実習に派遣される皆さんが、各地の教会において既に働かされている主イエスの恩寵の御業に、開かれた心で触れることができますように、心よりお祈り申し上げます。

学長室から

学長 神代 真砂実

「神学校と教会とは車の両輪」という言葉は、東京神学大学で、よく聞かれるものです。この言葉は初代の学長である桑田秀延先生に遡るようです。それは、神学校と教会とは互いに補い合っている関係にあるという意味です。もちろん、単に補い合うというのではなく、単に補い合うというのではなく、互いに補い合っている関係にあるという意味です。桑田先生は「神学生の学問上並びに信仰上の訓練は、学校だけでできるのではなく、学生を送り出している教会と、学生の出席している教会と、全教団の祈りとに結びつけてはじめてできるのである」と言っておられます。神学生は、神学校でも教会でも学問上・信仰上の両方の訓練を受けるのです。そして、さらに桑田先生は「私は神学生の出席している教会の牧師の協力と指導とをひじょうに大切に考えている」とも書いておられます。

こういうわけで、伝道者養成という目的のために、教会との連携が深まることは大切です。本学では、後期の始まる時期（今年は9月18日）に神学生出席教会牧師と教授会との懇談会を開いています。これまで記してきたような意味での「神学校と教会とは車の両輪」という言葉を改めて確認する機会です。

東京神学大学受験志願者募集のご案内

「私は近くにいる神なのか—主の仰せ。

遠くにいる神ではないのか。」(エレミヤ書 23 章 23 節 聖書協会共同訳)

主なる神は、エレミヤに与えた託宣を通して、当時の偽預言者たちが、神という存在を自分たちの理解可能な次元に押し込めてしまっていることを批判しています。主なる神は「私は近くにいる神なのか」と問いかけます。これは神が私たちに寄り添ってくださる方であることを否定する言い方ではありません。神のことをある場所だけに存在するお方と理解して、神に限界性を設ける理解のことだと言われています。

むしろ神は、ご自分のことを「遠くにいる神」と表現されます。これは何か「よそよそしい神」ということを意味する言い方ではなくて、神がこの地上のどの場所にも縛られておらず、従って私たちのどんなちっぽけな理解にも収まることはなく、この世界を超えたところからこの世界全体をご覧になり、また支配しておられるお方だということです。

翻って、私たちも、ここで神が言っておられるように、神のことを実にしばしば、「近くにいる神」にしてしまうことがあります。私たちは、何かを神として信じているかどうかに関わりなく、自分にとって都合の良いものを実質的に神として崇め、偶像化してしまうことがしばしばあります。これは、エレミヤ書の言葉を用いて言えば、「近くにいる神」をつくる行為であるとも言えるでしょう。そして私たちはこの社会において、数限りない「近くにいる神」に囲まれて生きていると言えるのかもしれない。

しかし、私たちが本当に神を「遠くにいる神」として知るとき、私たちは神が私たちと全く異なる存在でありながら、同時に長さ、高さ、深さをもった愛を示してくださるお方であることを経験していくことになります。その愛とは他でもなく、私たち罪人のために、独り子の命を差し出すほどの愛です。私たちは、「近くにいる神」で溢れているこの世界のただ中で、このような愛を示してくださる「遠くからの神」、私たちの理解や常識を超えた愛と力をもって、私たちを支えてくださるお方をこそ指し示すために召されているのです。

この召しは全てのキリスト者に与えられているものですが、同時に主は、伝道者という形でその召しを担って生きる者をも起こしてください。従って、信徒として伝道を志す方、伝道者として伝道を志す方、いずれも本学で学び、教会に仕えるための訓練を受けることができます(信徒として学部までの学びをする「神学研修志望」についてお知りになりたい方は「神学事始」のパンフレットまたはHPを参照してください)。本学を受験する思いをお持ちで、入学者選抜について相談なされたい方は、教務課主任の須田拓先生、そして教務課副主任の私がいつでも相談をお受けいたします。

また、本学には、以下のような機会において、入学者選抜を含めた本学の様々な事柄について知る機会が設けられています。

- ・オープンキャンパス：12月5日(土)
- ・体験授業：10－11月

特に「体験授業」は、昨年のトライアルを経て、今年度から本格的に開始される試みで、本学で普段開講されている様々な神学の分野の授業をそのまま体験できます。詳しくは別途お送りするチラシやHPをご覧くださいますと幸いです。

今年度の入学者選抜の日程については、HPや各教会に配布しております「遣わされる日のために」というパンフレットに詳しく記してございます。ここでは簡単な入学者選抜の日程に関する情報のみを記します。

- ・11月入学者選抜：11月23日(月)
指定校推薦型入学者選抜・指定校推薦型編入学者選抜・編入学者選抜
- ・2月入学者選抜：2月16日(火) 一般選抜・編入学者選抜
- ・3月入学者選抜：3月9日(火) 一般選抜・編入学者選抜

出願の際は、HPから募集要項をダウンロードすることが可能ですし、募集要項の最終ページにあるリンクから、出願書類一式をダウンロードすることも可能ですので、ぜひご利用ください。なお、紙の募集要項と願書もご用意しておりますので、ご入用の方はご請求ください。

最後に、本学の奨学金についてアピールさせていただきます。本学は、諸教会の皆様から頂いた献金によって、奨学金の制度が大変充実しています。主なものとしては、入学時奨学金、一般奨学金、指定奨学金といったものがあります。最初の二つは授業料の減免を目的としたもので、最後のものは神学生の生活を支えるためのものです。全ての学生がこの奨学金に申し込むことが可能ですので、経済的に不安がある方は、遠慮なくお申し込みください。また、詳しくはHPをご覧ください。

戦争や災害をはじめとした、この世界を不安に陥れる様々な出来事に囲まれながら、私たちは日々を生きています。このような中で、多くの人々が生と死についての根本的な問いを抱えているのではないのでしょうか。復活であり、命であられるイエス・キリストの福音を届け、この世界の救いのために執り成しを祈る人が今こそ必要です。皆様の内にこの務めへと召されているという確信が与えられている方がおられましたら、ぜひ東京神学大学で共に学び、研鑽の時を分かち合いたいと願っています。



東京神学大学 教授
入試担当 田中 光

「ニューイングランド・ピューリタンにおける 回心体験告白の意義 —ジョン・コットンを中心として—」

青山学院大学 宗教主任 和 寺 悠 佳



本発表では、ニューイングランド・ピューリタンの会衆派教会に特徴的な回心体験告白をてがかりに、自由教会形成の神学の一端を明らかにすることを目指した。キリスト教会は、ヨーロッパにおいては、四世紀初頭のローマ帝国による公認以後、長くいわゆる国教会制度のもとで歩んできた歴史を持つが、ニューイングランドに渡ったピューリタンたちは、新しく自由教会を形成した。そこには、自由教会を建て上げる神学があり、それは国教会制度のもとで形成された神学とは異なるであろう。そして、日本の教会はこの自由教会の伝統を受け継いでおり、ニューイングランドの教会形成の検討は日本の教会に対して示唆を与えるであろう。

ジョン・コットン（一五八四—一六五二）は、初期のニューイングランド・ピューリタンの会衆派の牧師であった。彼は、オールディングランドで神学教育を受けたが、ピューリタン迫害から逃れ、一六三三年にニューイングランドのボストンに渡り、マサチューセッツ湾植民地の会衆派教会において指導的役割を果たした。教会は信仰告白のうえに成立するが、マサチューセッツ湾植民地の教会では、教会が受け継いできた信仰の告白と会衆一人ひとりの回心の告白との二つの告白が求められた。後者が回心体験告白であり、コットンはこれを重視した。教会入会にあたり信仰告白が

重視されたのは、会衆主義の教会においては各個教会（「見える教会」）が重要であったからである。ニューイングランドの会衆教会では、地上の教会を天上の教会に似たものとするために、教会員資格付与は厳格になされた。また、会衆主義において「見える教会」とは、会衆のことである。教会に入られる会衆は、聖化された者（聖徒）であり、洗礼を授けられた者がすなわち聖徒なのではない。聖徒と認められるには条件があり、それは信仰告白が受け入れられることであった。コットンは、回心結果であると見た。神の恩恵が多様であるからこそ、それぞれが回心に至った経緯を告白する回心体験告白が成立し得るのであり、彼はこれを重視した。

コットンは、聖化の出発点は「キリストとの一体化」と言う。それは、ただ神の恩恵のみによる受動的な事柄であるとして、同時代のニューイングランド・ピューリタンのトマス・フッカーらが主張した救済準備主義を否定する。我々は、空にされ、そこにキリストが満たされることによって、キリストと一体化する。すると、キリストの内に我々が置かれるようになるため、我々の内にキリストの働きが伴うようになる。これが聖化である。コットンは、聖化が自然状態の回復以上の事柄であることを強調する。我々は自然状態から脱して、聖化に至る。自然状

態とは全く違った、別の、新しい状態に再生させられるのである。

なお、これらは特に聖霊の働きである。聖霊は、神の怒りの下に我々を拘束し、我々のもとに到来することから、我々は「キリストとの一体化」へと向かっていく。続いて、聖霊が我々の意志や功績を燃やし尽くして否定するとき、聖霊によって我々は受け入れられ、キリストに結ばれる。こうして、我々は、キリストに結ばれ、神の子とされる。我々の罪はキリストに帰せられ、キリストの義が我々に帰せられ、我々は義とされる。さらに、聖化されていく。

コットンは、聖霊の内在によりもたらされる我々の聖化は「物理的」であって、実体があると主張する。一方で、聖化を「物理的」な変化だと認めないトマス・シェパードのようなピューリタンもいる。しかし、コットンによれば、聖霊が内在し、「キリストとの一体化」の内に置かれている我々は、その状態もわざも自然状態から変えられる。その変化は、例えば我々が律法を恐れて行動を変えることは異なる、新しい創造である。ここから、聖化は、自己だけでなく、他者によっても認識されるとコットンは主張する。「キリストとの一体化」の内に置かれているキリスト者は、聖化の道を歩んでおり、従前のあり方から変化させられ、状態だけでなくわざも善きものに変えられているのであるから、この点は当然ながら他者

によって認識されることになる。よって、回心体験告白を会衆が受け入れて教会員資格を付与するという教会形成の方向性が生まれたと言っただろう。

コットンが回心体験告白を重視したのは、一人ひとりに働く聖霊の自由な働きに着目したからである。聖霊が我々をキリストと一体化させ、我々に内在するキリストが我々に善きわざをなさせる。そこに、聖化された者のわざとしての信仰の告白と教会形成が成立する。聖霊の働きの表れとしての回心体験告白を重んじたコットンの神学から、我々のわざが用いられるという自由教会における務めを与えられた我々は学ぶことができるであろう。

おわりに、コットンの神学の課題を指摘しておく。コットンは回心体験告白を重視し、それが聖化された者の善きわざであると見たのであるが、そのように判断することがいかに可能かは慎重であらねばならない。彼は聖化された人間の善きわざを語ったのであるが、彼が否定した救済準備主義における「善きわざ」と聖化された者の「善きわざ」との峻別が、コットンにおいてどのように担保されていたのかは疑義なしとはできない。また、今後の課題として、彼の聖霊論のさらなる検討と救済論における神のわざと我々のわざとの関係性についての検討を挙げておきたい。

＜ 2026 年 夏期伝道実習報告 ＞



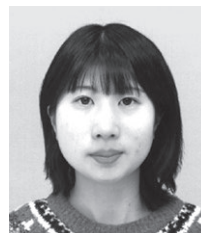
山本 愛



安田 裕



勝山 光仁



浦 集

「私たちは、み言葉を聴きました」

学部4年 浦 集

日本基督教団仙台台東一番丁教会（宮城県仙台市・瀬谷寛牧師）において、一ヶ月間にわたる実習をさせていただいた。

実習において、教会を信じる幸い・教会に仕える喜び・み言葉を語る喜びが新しく与えられた。教会は、罪人である私たちが共に集められたところであり、そこには人間の弱さや限界もある。しかし、いや、だからこそ教会は、私たちが信じさせていただくものなのだ。ここに、義とされた罪人の幸いがある。

朝、牧師と共に祈りをする。そこから一日を始めた。そこで私は、牧師・牧会者の祈りを学んだ。教会には、さまざまな歩みを重ねてきた人が集っている。高齢の病人の中にある人、とりわけ弱さを抱えている人……その一人ひとりが、教会のひとえだとして覚えられていく。牧師は、教会員のために執り成しの祈りをし、み言葉を携えて一人ひとりの魂に出会っていく。

人生で初めて、主日礼拝の説教をさせていただいた。説教に召された者は、救いの喜びを語らずにはおれない。み言葉の奉仕の厳粛さと光栄さを噛みしめた。最終日の説教題を「私たちは、み言葉を聴きました」とした。私と教会の皆さま、説教者と聴き手が共にみ言葉に聴き、教会を形づくらせていただいたことの神への感謝を込めてのことである。

この実習を通して、私は、「教会を愛して、説教する」という召命観を新たにさせていただいた。神と仙台台東一番丁教会の皆さまに心から感謝を申し上げます。

「福音を宣べ伝えなさい」

学部4年 勝山 光仁

敬愛する神の家族の皆様。日頃より東京神学大学を覚え、温かい関心とお祈りをもって支えてくださっていることです。心より感謝いたします。

皆様の支えにより、私たちはこの夏も「夏期伝道実習」という実に豊かな養いと奉仕の恵みに与えることができました。

私はこの夏、東京都にある聖ヶ丘教会にて実習の機会を頂きました。教会の玄関をくぐるたび、私の目を捉えたのは「全世界に行つて、すべての造られたものに福音を宣べ伝えなさい」という主の宣命令の御言葉です。

一ヶ月にわたる実習において、毎朝この御言葉と向き合い、藤井先生から、教会、礼拝、牧会、説教、そして宣教について深く教えていただく中で、私の心にはこの御言葉が静かに、しかし力強く刻まれていきました。

実習の締めくくりとなる9月6日の夕拝では、説教の奉仕を担当いたしました。実は説教箇所を選んだ二ヶ月前では全く意図していなかったことでしたが、黙想を重ねていくうちに、あの主の宣命令が、自然とメッセージの中心となっていたのです。復活のイエス様は私にこそ「福音を宣べ伝えなさい」と強く求められているのだと感じ、胸が熱くなる思いがしました。

聖ヶ丘教会で与えられたこの復活のイエス様の尊い命令を心に深く抱き、与えられた学びの場で、一層学びに励んでいきたいと思えます。

「甲府教会での実習を終えて」

大学院1年 安田 裕

日本基督教団甲府教会にて実習をさせて頂きました。齋藤真行先生とご家族の皆様、甲府教会の皆様には一月の間、大変お世話になりました。心より感謝申し上げます。

齋藤先生からは牧師の職務とは何かについて教わりました。わたしたちの信仰生活を支える教会、聖書、神学について、牧師がどのように向き合っているのか現場の生の声を聞かせて頂きました。

齋藤家の皆様と過ごしたアットホームな一時に癒されました。体を動かしたり遊んだり、食卓での団欒の時をご一緒させて頂きました。また、実習生活についても、困っていることはないかと親切に声をかけてくださいました。

そして、甲府教会の皆様お一人お一人の温かく迎えてくださったお顔を思い出します。普段お話しせていただく時も、祈祷会や親睦会でお話をさせていただく時にも、神学生である私に関心を持って向き合ってくださいました。証しをさせていただいた時に、静かに耳を傾けてくださった甲府教会の皆様が心に残っております。

二度目の、そして最後の実習の地となった甲府では、前年の四国西南地区での実習を改めて振り返る時間も過ごしました。齋藤先生からは説教準備の指導をして頂きましたが、四国西南地区では説教後の指導をして頂きました。ここには書き切れませんが、二度の実習を通して、かけがえのない財産を頂きました。

「喜びの旅」

大学院1年 山本 愛

二度目にして最後の夏期伝道実習で、北陸連合長老会に派遣されました。今回は六つの教会に滞在し、中部教区のキャンプにも参加しました。引越し続きでしたが、どの教会でも本当に温かく迎えられ、神学生のための祈りに支えられた一か月でした。

北陸は仏教王国で、能登半島地震の傷跡も残っています。その北陸に暮らす方々との交わりを通して、主が北陸という地を選ばれて教会が建てられていることを実感しました。特に、北陸連長に連なる教会の繋がりに、各教会はもちろんのこと、北陸連長全体としてもキリストの体を形作っている姿を見た思いがしました。

説教奉仕では、一つの聖書箇所ながら、計8回も語る機会が与えられました。こんな経験はもう二度とないかもしれません。先生方のご指導を仰ぎつつ、試行錯誤を重ねることは、昨年に続き、言葉を磨く貴重な訓練となりました。

また北陸は、牧師である父と関わりのある地でもあります。父をご存じの方や、父が仕えていた教会の方との出会い、そして父の母教会で証しの奉仕をさせていただいたことも、大きな恵みでした。旅のひとつを終えて、卒業後どこへ遣わされ、そこに何年仕えるとしても、この地上の旅路が伝道の旅路として用いられる、その喜びを再確認しました。先生方と教会の皆様、何よりも歩みを導いてくださった主に心から感謝し、残された神学生生活に励みます。

東京神学大学 オープンキャンパス 2026

日時：2026年12月5日(土)9:00～（受付8:45～、個別の受験相談は11:45頃から開始予定）

◆ 東京神学大学に来校 または 一部オンラインでの参加 ◆

ショート・レクチャー 神学の学びの奥深さに触れます。

礼拝 神学校生活の“霊的中心”を体験できます。

学校紹介 神学生が東神大の魅力をお伝えします。

入試説明 受験の準備と心構えについてご説明します。

受験相談 教員が個別の相談に応じます。

懇談 神学生との交流の機会です。

プログラムの詳細や最新の情報も
HPでご確認いただけます。



◎ 事前申し込み制です！

Web からの申し込みは 
www.tuts.ac.jp/admission/



東京神学大学 教務課入試係

〒181-0015 東京都三鷹市大沢 3-10-30

Tel：0422-32-4185 Fax：0422-33-0667

E-mail：tuts@tuts.ac.jp

◆ 10月からの公開夜間神学講座のご案内 ◆ 各講座：全6回

月曜日（11月2日～）	「牧会カウンセリング入門」	講師	吉岡	光人
金曜日（10月30日～）	「旧約聖書緒論概説」	講師	宮寄	薫
月曜日（1月18日～）	「信仰の問いに向き合う」	講師	長山	道
金曜日（1月22日～）	「パウロ入門」	講師	河野	克也

*

*

*

会 場：日本基督教団 銀座教会

時 間：午後6時～8時

定 員：各講座 30名

聴講を希望される方は、夜間講座事務局までお問い合わせください。

2027年度の夜間講座パンフレットは、12月下旬にお届けできる予定です。

◎お問合せ・お申込み・資料請求

東京神学大学 学外活動委員会（夜間講座事務局）

Tel：0422-32-4185 Mail：yakankouza@tuts.ac.jp

2027 年度 学生募集



東京神学大学

「雨も雪も、ひとたび天から降ればむなしく天に戻ることはない。それは大地を潤し、芽を出させ、生い茂らせ種蒔く人には種を与え食べる人には糧を与える。そのように、わたしの口から出るわたしの言葉もむなしくは、わたしのものに戻らない。それはわたしの望むことを成し遂げわたしが与えた使命を必ず果たす。」(イザヤ書 55 章 10 - 11 節)

【入学者選抜情報】

		出願期間	試験日	選抜区分
11月	学部	2026年11月3日(火)～6日(金)	2026年11月23日(月・祝)	指定校推薦型入学者選抜
		2026年10月16日(金)～23日(金)		指定校推薦型編入学者選抜 編入学者選抜
2月	大学院	2027年1月12日(火)～19日(火)	2027年2月16日(火)	一般選抜 編入学者選抜
			2027年2月16日(火) 17日(水)	博士課程前期課程 博士課程後期課程 ・聖書神学専攻入学者選抜 ・組織神学専攻入学者選抜
3月	学部	2027年2月2日(火)～9日(火)	2027年3月9日(火)	一般選抜 編入学者選抜

資料請求
お問合せ東京神学大学
教務課入試係

〒181-0015

Tel : 0422-32-4185

E-mail : tuts@tuts.ac.jp

東京都三鷹市大沢3-10-30

Fax : 0422-33-0667

URL : https://www.tuts.ac.jp/

告知板

第55回 教職セミナー案内

主 題：「復活」

日 時：2027年1月12日(火)～14日(木)

場 所：国立オリンピック記念青少年総合センター

渋谷区代々木神園町3-1

◇小田急線 参宮橋駅下車 徒歩約7分

◇地下鉄千代田線 代々木公園駅下車 徒歩約10分

プログラム：シンポジウム、特別講演、分団協議 等

※参加費、申込方法(締切：12月11日)

等は本学ホームページをご覧ください。

※宿泊に付きましては、参加者ご自身で近

隣の宿泊施設をご予約ください。

※お問い合わせは本学学外活動委員会まで

お願いいたします。



本学ホームページ
教職セミナーサイトは
こちら

学 事 往 来

9月7日	公開夜間神学講座	9月23日	後期始業式、始業講演… ウェイン・ジャンセン 教授
9月15日	2学期開始 銀座教会 大学院修士論文 提出締切	9月24日	後期授業開始
9月18日	神学生出席教会牧師と 教授会との懇談会	9月26日	日本伝道を担う青年の 集い
		10月6日	夏期伝道実習報告会
		10月16日～23日	11月入学者選抜 願書受付期間

9月7日	第572回常務理事会	11月3日～4日	全学修養会
		11月23日	11月入学者選抜実施日
		11月25日	11月入学者選抜合格発表
		12月5日	表 オープンキャンパス
		12月7日	第218回定期評議員会、 第264回定期理事会 銀座教会
		11月9日	第574回常務理事会 銀座教会
		10月19日	第573回常務理事会 銀座教会

公 務 出 張

10月18日	山梨地区後援会
10月19日	常務理事会
11月9日	常務理事会
11月15日	東京・西南地区後援会
12月7日	定期評議員会、定期理 事会

訃 報

溝口 賢次氏

2026年7月20日逝去されま
した。86歳。1967年東京神
学大学大学院修了

二〇二六年十月十六日発行
東京神学大学報・三三九号
〒181-0015 東京都三鷹市大沢三一〇-三〇
東京神学大学広報委員会
電 話 〇四二二-三二一四一八五
F A X 〇四二二-三三三〇六六七
郵便振替 〇〇一五〇一五〇三三
https://www.tuts.ac.jp/